

2020年度 年末手当シリーズ②④

東日本ユニオン 中央本部

これが現場社員の声だ！

労働密度が変わっていない、いや、むしろ高まっているのに年末手当を減らすことは認められません。会社が出し渋っていた過去のボーナスで浮いた利益は、一体どこに消えたのか？

職場内では無所属の方や管理者によって「低額予想」が行われているのも事実です。これを覆すために、私は「悔しかった夏の減額分を取り返そうぜ」と職場から声をあげています。実際に「生活が苦しい」と言っている仲間や社員が多くいます。その仲間たちの想いに立って声をあげ続けていきます。

コロナ禍の危険な状況の中で、我々現場組合員や社員は「安全・安定輸送」を確保し担ってきた。会社はこのことに対し労をねぎらうべきだ！

年末手当は夏季手当でカットした分と内部留保金を合わせて**3.0ヶ月満額**を勝ちとりましょう！

「減額」だの「カット」は絶対に許せねえ。今までさんざん儲けてきても社員に配分してこなかったその理由を会社に「忘れた」とは言わせねえぞ！

「世間の手前、出せません」と言うのなら、日々、感染リスクを負いながら働いている我々に「エッセンシャルワーカー手当」としてでも出してもらうかなら！オレにとっては、最後の年末手当だ！（退職迫る 長野の組合員より）

これまで「増収増益」でもボーナス支給は「安定支給」。だったら今回も「安定支給」してくれ！低額回答では生活が成り立たない！

月々の給与での生活がプラスマイナスゼロの中、大学生の子どもに仕送りをし、子どもは足りない分をアルバイトで補っていましたが、コロナでアルバイトができず、貯金を切り崩し少なからず仕送りしています。

少しでも多くの年末手当が必要なんです！

住宅ローンや子どもの大学授業料の支払いにボーナスは必須です。会社の支払い体力は十分にある！**3.0ヶ月満額**を！

本体エルダー社員ですが、給与が減っても仕事量は現職と同じで責任も重い。私にとってボーナスが仕事へのモチベーションになっています！